

R

KANSAI UNIVERSITY NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

reed

No. 13

March, 2008

関西大学ニューズレター

発行日：2008年(平成20年)3月25日
発行：関西大学 総合企画室広報課
大阪府吹田市山手町3-3-35
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121
<http://www.kansai-u.ac.jp/>



■鼎談

大坪 文雄 (松下電器産業株式会社 代表取締役社長) × 森本 靖一郎 (理事長) × 河田 悌一 (学長)

グローバル化時代に羽ばたく

キーワードは「入り交じる」こと ―1



■リーダーズ・ナウ ―5

在学生 ― 社会学部1年次生・山根 愛以さん
社会学部1年次生・三村 有希さん
卒業生 ― 財団法人山本能楽会 理事長 山本 章弘さん

■研究最前線

現代にも通じる19世紀イギリスの経済史研究
女性や臨時労働者はどのように働いたか? ―7
経済学部 ― 山本 千映 准教授

歴史的建造物の保存とリノベーションに取り組む
建築の歴史資産の活用を目指して ―9
環境都市工学部 ― 西澤 英和 准教授

■トピックス[学内情報]

2008年度から新カリキュラム 関西大学「全学共通科目」
社会で活躍するための資質を伸ばす ―11
「笑い測定機」を開発 ―12

■連携事業/大学・地域連携

全国初! 複数大学による共同学部設置
関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学
3大学共同で生命科学系新学部を開設 ―13

■広がる教育研究のフィールド ―14

佐賀県武雄市と「連携協力に関する協定」を締結

天神橋筋商店連合会と連携協定

文化拠点とも連携して地域全体を活性化

■関大ニュース ―15

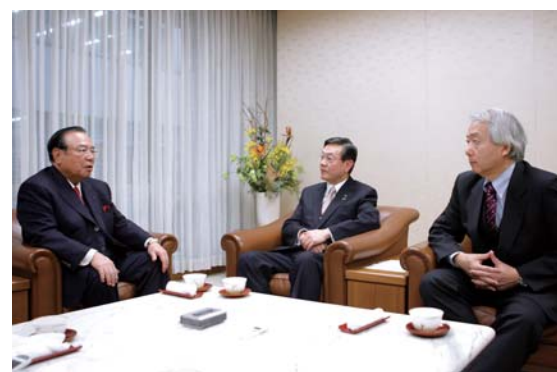
大阪府堺市に新キャンパス開設 ほが



グローバル化時代に羽ばたく

キーワードは「入り交じる」こと——

- 大坪 文雄 ◆松下電器産業株式会社 代表取締役社長
- 森本 靖一郎 ◆理事長
- 河田 悌一 ◆学長



日本を代表するメーカーでありグローバル企業である松下電器産業の社名が、10月からパナソニックに変更される。2006年6月、同社取締役社長に就任した大坪文雄氏は、関西大学工学部OB。現会長の中村邦夫氏による改革路線の仕上げに邁進しつつ、世界企業戦略を推進する姿は、関大生の目標であり夢でもある。今回は大坪社長を囲み、「グローバルエクセレンス(世界的な優良企業)」に求められる人材とその教育について語り合った。

◆研究熱心な恩師のそばで、夢中で学んだ3年間

森本 関西大学の卒業生は、企業のトップとして活躍されている方が少なくありません。なかでも大坪社長の存在は、今の学生たちの誇りであり、憧れでもあるといえます。この広報誌の巻頭ページにご登場いただくことができ、私たちも非常に喜んでおります。

河田 どういう人材が21世紀のこの日本に必要なのか、大学はどんな学生を育成すべきか、大坪社長のように卒業後に素晴らしい仕事をするためには学生時代に何をしておくべきか、といったお話をぜひ聞かせてください。工学部管理工学科のご出身ですが、どのような学生時代を送られましたか。

大坪 大学院の修士課程も含めると、関西大学で6年間お世話になりました。6年間の思い出を語ればきりがありませんが、印象に残っているのは後半の3年間、つまり大学4年生の卒業研究と修士課程の2年間です。卒業研究のテーマを決めるとき、僕は管理工学科で一番忙しい研究室はどこなのかを調べて希望しました。その研究室の先生が伊藤郁男助教授(当時)で、学位を取るために熱心に研究しておられました。研究も佳境というところに、先生の研究をそばで見せていただき、かかわることができたのは何より有意義なことでした。

森本 伊藤先生は温厚で、たいへん立派な、研究熱心な先生でしたね。

大坪 はい。校舎がまだスレートぶきのところで、他の学部は学園紛争で封鎖されていましたが、工学部だけは関係なしといった雰囲気。助手の方も、みんな大学に残って研究者を目指しておられ、活気にあふれていました。実験は夏休みも関係なく、先生ご自身の学会発表のプログラムに合わせて、テーマをどんどん与えてくださいました。明確な目標を持って努力しておられる方々と一緒に研究できるので、もう夢のような毎日でした。

修士のときには谷村正義先生にお世話になりました。「人生、年を取ってからと若いときの1年間の時間感覚は全然違う。年を取ると時間は早く過ぎる。例えば、糸の先に重りを付けて振り回すと、だんだん糸が指に巻きついてきて一周する時間が短くなるだろう。それと同じだ。だから若いときにやれるだけやりなさい」と、励ましてくださったことは忘れられません。

森本 その当時、工学部は8学科でしたね。現在は3学部9学科になりました。昔も今も理工系の学生は非常に熱心で、朝早くから夜遅くまで研究や実験に励んでいます。

大坪 8学科の中から、管理工学科を選んだ理由は、機械工学をベースにして工場マネジメントまで勉強できるのが魅力だったからです。それにしても「管理工学」という学科名称は、今から思えば画期的でした。

◆世界の人々に入り交じり、自己主張できる国際人たれ

河田 グローバル化の時代といわれる現代ですが、関西大学が世界に通用する大学になるには、また関大生が日本国内のみならず世界各地で活躍するためには、今後何が必要だとお考えですか。

大坪 日本を代表する企業であっても、ビジネスそのものはグローバルでなければ発展しない。アメリカも、ヨーロッパも、ロシアも、中国も、ブラジルも、インドも、すべての国を対象に、あらゆる人材を活用して、われわれの商品を販売したり、そこで製造したり、近い将来は本格的な開発も助けていただかなければ、成長を維持することはできません。グローバルエクセレンスに求められる人材は、それぞれの国の歴史を背負った価値観や文化を、まず受容する心の大きさがあること。当然、書物を読んだりして視野が広がらないとだめですね。さらに、そういう国の人と、実際に入り交じって仕事ができることが必要です。ここで「入り交じる」とは、現地のカルチャーに溶け込んでしまうことではありません。要は、自分の意見や主張を持ちながら、現地の異なる価値観の人と、一つの目的を達成することが大事なんです。それだけのリーダーシップが求められます。僕は「入り交じる」というのが、今後の重要なキーワードだと思います。

森本 「入り交じる」という表現に通じると思うのですが、関西大学は2010年春、大阪医科大学、大阪薬科大学と共同で新学部を設置することになりました。「医工薬連携」の学際領域のほか、従来の日本の大学でやっていない「医療経営」というような分野も切り開いていきたいし、お医者さんがこの大学院に来て研究するといったことも可能になるでしょう。

大坪 ニュースで拝見しましたが、素晴らしいことですね。大学同士、大いに「入り交じって」ほしい。大事なことは、日本の大学生がアフリカやインドや中国へ、企業家精神を持って出ていくことができるかどうかです。今、日本は安定志向で大きな企業へ入ろうとする大学生がほとんどですが、これでは新しい企業は生まれてきません。松下電器産業も、創業者が当時のお金で100円、今に換算して約100万円で事業を始められて、今日があるのです。さまざまな大学が連携し、未来の世界を見据えて改革していけば、企業家精神を身につけた学生が育っていくのではないのでしょうか。日本は少子高齢化が進む中で、ビジネスチャンスを開く努力を最大限にやらなければならない。グローバルな経営に堪える若い人材が、ぜひほしいのです。他者の価値観を受容しつつ自己主張し、「入り交じって」自分の仕事が成し遂げられるという人材の育成に励んでいただきたいですね。

◆テコの原理を働かせる力は、学生時代の経験と蓄積

河田 大坪社長がお考えになる、松下電器産業の21世紀の現代における一番の強みとは何でしょうか。

大坪 経営理念を創業者が遺されたということです。当社は何のために存在するのかという根源的な問いかけに、答えがはっきりある会社なんです。われわれは社会から人材やお金や土地や資源を借りて、初めて経営が成り立っています。社会の公器であることを大前提にして、われわれは世界の方々のより快適で便利な生活に寄与する企業です。そこで技術的に素晴らしいことは必要条件で、その技術を活用した商品が、世界中のお客様に受け入れられて初めて企業の存在意義を達成できる。創業から90年たっても、この会社を存続させる基本方針が明確にあ



大坪 文雄（おおつぼ ふみお）
1945年大阪府生まれ。関西大学工学部管理工学科卒業、71年同大学院修了、松下電器産業に入社。オーディオ・ビデオ本部の開発工場長、シンガポールの製造子会社社長を経て、95年オーディオ事業部長。2003年にパナソニックAVCネットワークス社長、松下電器産業専務取締役就任。デジタル家電分野において多くの商品群を、市場をリードする事業に育てる。06年6月取締役社長に就任。

自分の意見や主張を持ちながら、異なる価値観の人と、一つの目的を達成することが大事。

長のように、大学で一生懸命に学び、恩師や友人から大きな影響を受けたことが生きるベースになっていると、正直に話してもらわないと(笑)。

◆「衆知を集め」、咀嚼し、責任を持って最終決断する

大坪 関西大学は規模が大きい大学なので、いろんな特徴を持った先生がおられるし、いろんな個性のある学生がいる。学生時代に、尊敬できる先生に出会う努力をしてほしい。そこから必ず何か見えてくるはず。今、日本全体が意気消沈しているとか、国力が劣化しているとか言われていますが、あまり気にすることは無いと思います。若い人は世界に大きく羽ばたいてほしい。森本 私も同じ思いです。大坪社長にもご出席いただいた一昨年の創立120周年記念式典で、「強い関西大学」に加えて、「関西大学から世界へ」というスローガンを掲げました。グローバルに活躍できる力量を持った人材を多教育成し、輩出する。そういう大学にしていきたいと思っています。在学生の中からもそうした人材が少しずつ現れてきています。例えば、フィギュアスケートの高橋大輔選手や織田信成選手の世界を舞台にした活躍ぶりは、大学関係者にとって非常に喜ばしいことですが、OBとしてはいかがですか。

大坪 関西大学の学生が注目を浴びるのは、OBとしてはもちろんうれしいです。ただ、スポーツだけでなく、例えば司法試験で良い成績をあげているとか、企業で多くのOBが大活躍しているとか、さまざまな分野で世間の目を引くようになってほしいですね。

森本 大学が良くなれば卒業生が喜んでくれるし、卒業生が活躍されれば大学にとっても名誉であるという、相関関係にありますからね。

河田 昨年、『通天閣』という小説で第24回織田作之助賞大賞を受賞した小説家・西加奈子さんは法学部出身の30歳です。幅広い人材が育ってきています。

森本 一人が、その分野で世に出るということは、底辺には10



河田 悌一（かわた ていいち）
1945年京都市生まれ。大阪外国語大学中国語学科卒業。大阪大学大学院で中国哲学を専攻。86年関西大学教授。文学部長、副学長を歴任し、2003年10月学長に就任。1991年に在外研究員としてプリンストン大学で中国思想史を研究。文部科学省大学設置・学校法人審議会委員。社団法人日本私立大学連盟常務理事。財団法人大学基準協会理事。

「学の実化」を目指し、着実な社会貢献を果たし続けるため、21世紀に求められる人材の育成に努める。

ります。関西大学でしたら「学の実化」とか、そういう理念に当たると思っています。

河田 私立大学には建学の精神があり、それに合わせた大学運営があります。関西大学も御社と同じように、そういった理念を実現させるべく存続しています。「学の実化」を目指し、着実な社会貢献を果たし続けるため、21世紀に求められる人材の育成に努めています。先日、竹中平蔵氏が客員教授として講演してくださいましたが、改革の必要性について、二つ良いことをおっしゃいました。トップの条件として「パッション」、情熱を持っていないといかんと。それが無いと、いくらいいことを言っても伝わらない。もう一つは、「戦略は細部に宿る」、ものを成し遂げるときの戦略は、きちっと細かくやっついていかないと。大学にも、企業にも言えることですね。

大坪 会社に入ると、仕事という重しが与えられます。これをテコの原理で解決していくのが社員です。まず、最初にテコの原理を働かすためには、自分の重しがあるんです。その重しこそ、学生時代に学び蓄積した経験や力だと思えます。面白いもので与えられた課題を解決すると、自分の持っている重しが少し大きくなる、するともっと難しいテーマを与えられて、また重しが少し大きくなる。こうして一つの重しをベースに成長し、難題に立ち向かえる力が育っていく。大学教育の役割は、最初のベースとなる重しをどのような形で与えてやれるか、なのです。中には大学時代、何も勉強しなかったと言う人もいますが、ほとんどは誇張であって、まじめに講義を受けるかどうかは別として、知を磨くことはしているはず。それプラス部活の交流やアルバイトなどの経験が積み重なって、テコの原理を働かせる重しになっていくのです。

河田 同感ですね。先日も学外のある会議で、会社のトップがマスコミのインタビューなどで「自分は若いとき、大学でほとんど勉強しなかった」と語る人が多いのは問題だという話題が出ました。「何も学ばなかったが社長になった」というストーリーを信じて大学に入って来てもらっては困る。やはり大坪社

人、50人、いやもっと大勢が頑張っているということですから、素晴らしいことです。

大坪 そうですね。企業は売り上げも大きくしなければなりません。尊敬される企業になることが何より大切です。そのため、社員一人ひとりが高い志をもって臨まなければなりません。現在、日本の企業ではいろいろな不祥事が起こっていますが、利益だけを追い求めているからでしょう。世界のブランドとして、永遠の存在として、世界中の皆さんに喜んでいただくことを目指すグローバルエクセレンスとして、僕は、全従業員の価値観を一つにまとめなければならない。しかし、大きな組織になると徹底しにくくなる。徹底不足だとすき間ができて不祥事に繋がる可能性があります。松下幸之助創業者の哲学に「衆知を集める」という言葉があります。組織の責任者は、人の意見を十分聞けけれども、自分の意見ははっきりさせないといけない。集めた衆知を自分の知恵で咀嚼して、より高いレベルの結果を出していくのが大事であって、単にみんなが意見を述べ合うだけでは「烏合の衆」です。衆知を集める立場の人間は、自分が最終決断を下す責任を負うことも知るべきです。知恵のぶつかり合いを通じて人が育つのだと思います。

◆失敗は、次の成功のためのステップと考えよ

河田 ピンチに対してはどのように対処してこられたのでしょうか。

大坪 自分の所属する組織が何らかのピンチに見舞われた場合、僕はいつも創業者の理念、つまり松下の不変の価値観に立ち返って、正しい方向に切り替えることを心がけています。今までにそういうピンチに遭遇し失敗したことは何度もありますが、人間の成長のためには、失敗も不可欠だと思っています。失敗を、失敗ととらえるのではなく、失敗は次の成功のためのステップだと前向きに考えればいい。若い人には、一つ失敗すれば、三つ成功して取り返してやろうというようなガッツがほしいですね。

河田 今の子どもは、一つ失敗したら立ち上がれない、あるいはパニックになる。失敗を次の成功の糧にできるような人を育てるのは、関西大学の良さではないかと思えます。

森本 昔はパンカラというか質実剛健でスポーツが強く、「法科の関大」といわれたように法学部が中心の大学というイメージでみる人が多かったのですが、昨今はグローバルCOEをはじめ、教育・研究の充実にも目を見張るものがあります。大学の人気のバロメーターと言われている志願者数も、昨年は初めて10万人の台を越え、10万5,265人となりました。教職員も頑張っているし、学生生活を取り巻く環境も格段に良くなりました。大坪社長が学生時代の関西大学とは、様変わりしていますよ。

大坪 僕らのころの実験室は、夏は暑くて、カーテンを閉めて裸になりバケツの水をかぶって実験していました。夏休みも毎日実験に明け暮れて、学費以上の実験道具を発注していましたから、学費は十分にペイできました(笑)。

◆教育も企業もグローバル化の時代

河田 文部科学省の平成19年度大学院教育改革支援プログラムに、「関西大学EU－日本学教育研究プログラム」が採択されました。EUをパートナーとして、「日本学」をキーワードに「国際的で魅力ある大学院教育」を実質化するという目的を掲げたことが高く評価されました。ベルギーのルーヴェン・カトリック



森本 靖一郎（もりもと せいいちろう）
1932年奈良県生まれ。関西大学文学部、法学部卒業。母校に奉職し、67年に関西大学教育後援会幹事長に就任。「大学と家庭のかけ橋」をモットーに、大学と父母間に信頼の絆を作り上げた。飛鳥文化研究所の開設にも尽力。事業局長、常務理事を経て、2000年専務理事、04年10月理事長に就任。大阪府私立大学連絡会代表幹事。大学トップマネジメント会議幹事。「強い関西大学」を提唱している。

「強い関西大学」に加えて、「関西大学から世界へ」グローバルに活躍できる力量を持った人材を多教育成し、輩出する。

大学内の「関西大学日本・EU研究センター」の開所式が3月10日にあり、関大の学生が能や狂言を披露します。また、映画監督の山田洋次さんが本学客員教授として一緒に行ってください、山田監督の「たそがれ清兵衛」「武士の一分」などの映画も上映します。これもグローバル化への一つの試みです。

最後に、パナソニックにブランドを統一する大きな決断をされましたが、その真意をお聞かせください。

大坪 松下電器は松下幸之助創業者が設立された会社で、90年の歴史があります。最も大事なことは、創業者の経営理念を守り、会社を永続的に発展させることです。そう考えると、もっとグローバルな経営を進める必要があります。松下電器産業という社名の下に「パナソニック」「ナショナル」という二つのブランドがある現状が、同業他社との競争上ベストかということ、そうではない。ここは思い切って、世界的に知名度が高い「パナソニック」の下に、33万人の全従業員を結集させることで過酷な競争に勝ち残ることは、創業者の思いとなんら矛盾はないと判断しました。今年6月の株主総会で賛同をいただければ、10月から関連会社の社名変更も併せて実施します。

森本 関西大学も大きく変わろうとしています。理事長就任直後に着手したことが、意思決定システムの変革です。理事会を最高議決機関とし、新たに「中長期戦略構想策定体制」を構築しました。ところで、大坪社長には、これまで何度か校友やご父母向けにご講演をお願いしましたが、ぜひ学生諸君にもお話していただきたいと思えます。

河田 そうですね。ぜひ客員教授になっていただき、学生たちに講義をお願いしたいものです。

大坪 ありがたいお話ですが、仕事に夢中で、なかなか外に出る時間が取れません。今年5月の工学部創立50周年記念式典では、「21世紀を担うモノづくり」というテーマでお話をさせていただき予定ですので、よろしく願いいたします。

森本 今日は有意義なお話で大変感動しました。お忙しい中、お時間を割いていただき、ありがとうございました。

LEADERS NOW!

記録と優勝目指して 跳び続ける

全日本学生陸上競技チャンピオンシップ
女子三段跳び・走り高跳びで優勝!

- 社会学部1年次生 山根 愛以 さん
- 社会学部1年次生 三村 有希 さん

体育会陸上競技部が、2007年全日本学生陸上競技チャンピオンシップの2種目で優勝した。女子三段跳びで山根愛以さんが、女子走り高跳びで三村有希さんが、それぞれ首位の栄冠に輝いた。二人ともこれから一層の飛躍が期待される1年次生。さらに上の記録を目指して練習に励んでいる二人に登場してもらおう。

昨年9月に神奈川県平塚市総合公園平塚競技場で開催された2007年全日本学生陸上競技チャンピオンシップで、山根愛以さんと三村有希さんがトップに躍り出た。山根愛以さんは女子三段跳びで12メートル97センチ、三村有希さんは女子走り高跳びで1メートル76センチの記録だった。

これまでのベスト記録は、山根さんが参考記録で12.97、公認記録では12.52、三村さんが1.80。今回、二人はベストとそれに近い記録で優勝したことになるが、これは本人たちも全く予想外だったようだ。実は二人とも世界陸上大阪大会の補助員として、進行をサポートする役に就いていたので、試合に備えた練習がほとんどできていなかった。そのため、続いて出場する西日本インカレに向けての調整のつもりで臨んだという。

「当日は台風が過ぎた直後で、強風のために助走のタイミングが合わなくて、他の強い選手は苦勞していたのですが、私はいつも踏切板の手前から飛ぶ癖があるのでちょうど足が合ったのです」と山根さんは謙遜し、「風に乗って跳んだ感じだった」という。

しかし、風に乗じて勝つのも実力のうちであり、日ごろの練習がものをいった結果だ。山根さんは中学1年から陸上競技を始め、三段跳びは高校2年から。三村さんは小学4年から走り高跳びを続けており、高校2年の時に全国インターハイで優勝、3年の時に国体で優勝の経験がある。



女子走り高跳び・三村有希選手
(写真提供: 関大スポーツ編集部)

これからも優勝のプレッシャーと闘い、練習と競技を重ねて記録を伸ばしていくであろう二人に、自分の強みや目標などを語ってもらった。



山根 愛以—やまね めい
■1988(昭和63)年、東京都生まれ。兵庫県園田学園高等学校卒業。社会学部1年次生、体育会陸上競技部所属。



三村 有希—みむら ゆき
■1988(昭和63)年、大阪府生まれ。大阪府太成学院大学高等学校卒業。社会学部1年次生、体育会陸上競技部所属。

山根 練習すればするほど記録がついてきます。あまり人と争うのは好きではないのですが、めちゃ勝ちたいと思っていた人に勝てたときは何とも言えない気分です。私の場合は気持ち次第で、テンションが上がっていれば良い記録が出ます。音楽が好きなので、試合に臨む際に気に入った曲を聴いてテンションを上げるようにしています。今年から日本選手権に出られるので、一つでも上の順位に行けるよう頑張りたい。出るからには14メートルを超えて日本記録を目指します。

三村 私は体が柔らかく、身体的に柔軟性があるから、普通の人だったら飛べない位置から飛べます。競技時間が2時間ほどになることもありますが、常に自分のペースを維持していきたい。大学では走りに力を入れてきた結果、走力は伸びたものの、それがうまく跳躍につながらず、この1年間記録は伸びていません。去年は全カレ(日本学生陸上競技対校選手権大会)で優勝できませんでした。今年はベストの記録を出して、優勝を狙い、2009年ベオグラードで開催されるユニバーシアード大会を目指します。

能は『観る』のではなく『感じる』

ビジネス街で能の面白さを発見!
「30年～40年後に花開かせるために」

- 財団法人山本能楽会 理事長
山本 章弘 さん —文学部 1983年卒業—

大阪市中央区のビジネス街にある山本能楽堂は、国の登録有形文化財に指定されている。戦火で焼失した初代能楽堂を1950年に再建したもので、木造3階建ての中に切り妻造り檜皮葺きの屋根をもつ伝統的な能舞台が広がっている。財団法人山本能楽会理事長の山本章弘さんは、日本の代表的な伝統芸能の気鋭の担い手として、能の将来を見据えて果敢な活動を展開している。



「関大の学生時代、能楽部の顧問は学長を5期務められた大西昭男先生で、ご自身でも能管(笛)をお吹きになりました。卒業してからもお世話になり、能の発表会のあいさつ文に、山本能楽堂はビジネス街にある杜の祠であり、ここを大事にして、ここで舞うことにプライドを持ってしっかりやりなさい、とありがたい一文を寄せてくださいました」

山本能楽堂は、山本さんの祖父、初代博之氏によって1927(昭和2)年に創立され、80年を超える歴史がある。伯父の山本勝一氏が関西大学予科の出身で、能楽部の学生を指導していた。現在は山本さんが指導に当たり、内弟子にも関大出身者がいる。

日本独自の舞台芸術である能は、舞、謡、囃子で構成された一種の音楽劇。作品の多くは、死者が亡霊となって登場し、無念の思いを語る夢幻能のかたちをとっている。死んでも死にきれない胸の底を、行きあわせた旅の僧などに語る。語ることによって、遂げられなかった思いが晴れていくかのようだ。その無念さや孤独な心に共感することができれば、能は大きな感動を呼ぶ。しかし、ストーリーの展開も人の目を引く劇的な動きもない。ワキと呼ばれる聞き手は、ほとんど座って聞いているだけだ。

「日本人でありながら能を観たことのない人が多すぎます。また、能の第一印象を聞くと、退屈だ、眠たい、何を言っているのか分からないという答えが返ってきます。どこでご覧になりましたかと尋ねると、多くはテレビの教育番組。あれは私でも面白くありません。能は観ることによって、どんどんセンスが



山本 章弘—やまもと あきひろ
■1960(昭和35)年、大阪府生まれ。83年関西大学文学部国文学科卒業。3歳で初舞台。父山本真義に師事し、大学卒業と同時に故25世宗家観世清和に入門。5年の内弟子修業を経て独立。現在、26世宗家観世清和に師事。観世流能楽師準職分。能楽協会大阪支部常議員、重要無形文化財総合指定。観世宗家直門の能の正統を伝えるとともに、初心者向けの夜の公演「とくい能」、「上方伝統芸能ナイト」、気軽な入門講座「まっちゃまサロン」を開催。ホームページは、<http://www.noh-theater.com/>

磨かれていく。残念なことに、テレビ全盛の現代は、感性がくすぶってしまっています。能を<観る>のではなく<感じる>方向で、高いと思われがちな敷居をなくし、こちらへ上がってきていただけるような環境づくりをしないとイケないと思います」

そのため、山本さんは年6回の定期公演「たにまち能」をはじめ、仕事帰りに気軽に寄れる時間帯に、所在地の町名である「徳井町」を冠した「とくい能」を開催。また能と同時に、狂言、文楽、落語、上方舞などをダイジェストで上演する「上方伝統芸能ナイト」を催している。さらに、初心者のための入門講座「まっちゃまサロン」やホテルのロビーで能に親しむライブなども開いている。

毎年、大阪府立天王寺高校で開催している鑑賞会では、能面を見せて解説している。「能面は無表情ではなく、少し向きを変えただけで悲しく見える。手の動きと相まって泣いていることになり、外国人でも見たらすぐに分かる。日本人だけが分からないのはなぜか。それは言葉が理解できないと分からないと思うからで、例えば、悲しい仕草のときの声は低い、上を向いて喜んでいるときの声は朗々と高い。日本語が分からなくても、うれしい場面か悲しい場面か、聴いているだけで分かる。感性で観て感じてほしい」

山本さんは小学校でも、総合学習の時間に能を指導している。「私がやろうとしているのは30年後、40年後に花開くことです。650年、連続と続いてきた能楽の、その歴史の一部を自分が担わせていただいていることが何よりの誇りであり、喜びであると同時に、先の世代にもより魅力的であるように継承していかないとイケないことに、強い責任を感じています」

■研究最前線

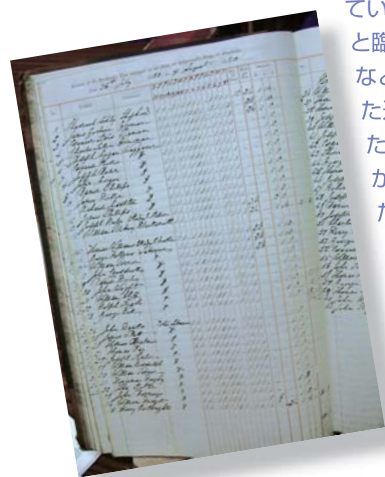
現代にも通じる 19世紀イギリスの経済史研究

女性や臨時労働者はどのように働いたか？

「センサス(国勢調査)」と「貸金台帳」から見えてくるもの——

●経済学部
山本 千映 准教授

「19世紀イギリスの経済について詳しく知りたいという、一見、現実離れしていると思われるような研究を通じて、知的興奮は十分に味わえます」。確かに、山本千映准教授の話の聞いていると、女性の働き方の問題、正社員と臨時労働者、社会保障の在り方と貧困など、現代的な問題意識から照射された過去の社会状況が、現代に生きる私たちにかかわるものとして浮かび上がってくる。コンピューターを利用した経済史の方法と成果について説明してもらった。



▲19世紀イギリスの貸金台帳



■常雇と臨時的な労働の違いに迫る

——山本准教授は2004年に第2回日本人口学会普及奨励賞を受賞している。過去の記録をデータベースとして蓄積し、コンピューターを駆使して分析する「歴史人口学」の手法は、経済史の分野にも大きな成果をもたらした。山本准教授の専門である19世紀イギリス経済史に関しては、国勢調査にあたる「センサス個票」と「貸金台帳」という二つのマイクロデータの史料がある。これらを照合することによって、労働者の家族構成や経済状況が見えてくる。

今の日本では名前が掲載された国勢調査のデータはありませんし、プライバシーの問題もあって犯罪記録などもまづ外には出てきません。その点はある程度自由度のある歴史研究のメリットを生かして、当時の労働者の家庭の生活水準や労働市場の状況などを明らかにすることができます。

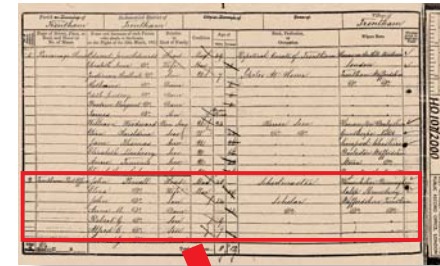
イギリスでは1801年に最初の国勢調査が行われ、その後10年ごとに実施されました。また、イングランドのミッドランド北部、スタッフォードシャーに位置するトレンタム農場には、1848年から1856年にかけて雇用されていた労働者について、

名前、職種、その日の出欠、貸金率など、詳細な情報が貸金台帳の形で残されています。

それらの史料を分析すると、年間労働日数が300日以上になる常雇の労働者と、50日以下の臨時的な労働者がおり、両者間では労働需給の決定のメカニズムが異なっていたと考えられます。中核的な男性労働者は農場の近くに居住し、農場主であるサザランド公爵所有のコテージに住む者もいて、家賃が免除されているケースもありました。一方、夏期にのみ短期的に雇用される労働者は、市場における貸金率が高い場合には代替としてアイルランド人労働者が雇用されるなど、非常に競争的な性格が見受けられます。

■女性労働者の状況把握から生活水準を考える

——18世紀のイギリスでは、労働者を使って農業が行われていたが、現在の正社員と派遣社員のような形があり、忙しい時のみ雇われるタイプの人がいたようだ。また、労働需要の状況に応じて女性も労働を担った。その中でも、毎日働いている女性のほか、「忙しいから奥さん連れてきて」「家族総出で来てください」というようなケースがあったという。女性の就業は、山本先生の研究テーマの一つだ。



【1851年のセンサス個票(国勢調査)】
John Powellさんは世帯主で、結婚して40歳、スクールマスター(学校の先生)、バーミンガムの出身であることが分かる。Elizaさんは妻で39歳。14歳の息子と11歳の娘、9歳と7歳の息子がいる。子どもたちの出身地は、いずれもスタッフォードシャーのトレンタムとなっている。



2	Trinityham, Reddiffe	John Powell	Head	Mar	40		Schoolmaster	Warwickshire, Birmingham
		Eliza	Wife	Mar	39			Staffordshire, Trenton
		John	Son	Un	14		Scholar	
		Annie M.	Daughter	Un	11			
		Robert G.	Son	Un	9			
		Alfred E.	Son	Un	7			
		Elizabeth	Daughter	Un	7			

Parish of	Residence	Age	Sex	Condition	Profession, Occupation	Where Born
122	Shadrach Ashley	50	M	Mar	Shepherd	Staffordshire, Trenton
123	Richard	45	M	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
124	Elizabeth	42	F	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
125	Shadrach	40	M	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
126	Elizabeth	38	F	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
127	Richard	35	M	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
128	Elizabeth	32	F	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
129	Richard	30	M	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
130	Elizabeth	28	F	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
131	Richard	25	M	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
132	Elizabeth	22	F	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
133	Richard	20	M	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
134	Elizabeth	18	F	Mar	Labourer	Staffordshire, Trenton
135	Richard	15	M	Un	Labourer	Staffordshire, Trenton
136	Elizabeth	12	F	Un	Labourer	Staffordshire, Trenton
137	Richard	10	M	Un	Labourer	Staffordshire, Trenton
138	Elizabeth	8	F	Un	Labourer	Staffordshire, Trenton
139	Richard	7	M	Un	Labourer	Staffordshire, Trenton
140	Elizabeth	5	F	Un	Labourer	Staffordshire, Trenton

Shadrach Ashleyさん(50歳、羊飼い)の記録が含まれているセンサス個票と貸金台帳

生活水準を考えると、女性や子どもの働き方をきちんと把握しないと、人類の歴史の半分しか見ていないこととなります。トレンタム農場で働いていた女性労働者の年間労働日数は比較的長く、男性労働者よりは雇用がカジュアルでしたけれども、先行研究が示すほど臨時的な存在ではなく、割に安定的に雇用されていたのです。

農業の季節性による労働需要の変化は、男性については雇用者数の増減によって調整されましたが、女性の場合は週あたりの労働日の増加という形で行われました。さらに、女性労働者の多くは他の家族と一緒に農場で働いており、特に夫が農場で働いている場合は出産・育児に際して、就業の面でかなり柔軟に対応されていたことが分かります。

■生の材料をデータ化し自分で考えよう

——コンピューターはこの分野の研究を急速に進展させたが、落とし穴もある。例えば1841年の国勢調査の場合、年齢が60歳、65歳、あるいは20歳、25歳など、切りのいい数字しか出てこない。なぜなら、これは調査の指示書に5歳刻みに整理して書くように決められていたからだという。それを知ったうえで見ていかないと、思わぬ間違いをしてしまう。経済史の研究

者として、学生へのアドバイスを——

学生の皆さんは実際に自分の目で見て確かめたことではないのに、書いてあることを簡単に信じてしまいます。生のものを見ないと、人が手を入れて本にしたものは、うそがいっぱい入っている。私が講義で話していることも、本当かどうか、歴史に関しては誰もその時代に生きてないのだから分からないのです。

国勢調査の記録の中で、ある女性が仕事を持っていないかたとしても、実際はどうだったか。調査期間の3月は農閑期であり、収穫の時期には働いていたかもしれない。国勢調査では働いていない女性も、貸金台帳を見ると働いている場合もあります。複数のデータを突き合わせる事が重要です。

学生はいずれ就職したら、生の材料をデータ化して考えなければならぬことが出てきます。例えば小売店のマーケティングでは、レシートの束を見ながらいろんなことを考えなければならぬでしょう。その前に、例えば綿の細い糸がハイテク素材だった時代のベンチャー的な企業がどうだったかということを追体験してみることもできる。加工されていない生のデータに触れて何が分かるか、経済史研究を通じて考えてもらいたいですね。



自分の目で確かめることの大切さを学ぶため、毎年ゼミ生とイギリスへ(イギリス、ウィルトシャーのストーンヘンジ遺跡にて)

研究最前線

歴史的建造物の保存とリノベーションに取り組む

建築の歴史資産の活用を目指して

伝統木造一時代を超えた英知を伝承するために――

●環境都市工学部
西澤 英和 准教授

2007年4月、関西大学環境都市工学部の創設とともに、建築学科には建築保存工学研究室が開設された。西澤英和准教授は耐震工学や鉄骨構造学の実証的な研究をベースに、神社仏閣などの歴史的建造物の保存修復にかかわってきた。昨今古い建物の修復や保存活用への関心が高まっている一方で、戦前からの伝統木造家屋などは次々と姿を消し、伝統技能を受け継ぐ優れた技能者の減少と高齢化が目立つ。そんな中、伝統木造をはじめとする歴史的建物の保存活用やリノベーションへの取り組みについて聞いた。

伝統的な木造建築は本当に地震に弱いのか？

――1995年の兵庫県南部地震以降、日本の伝統木造建築に耐震性がないという風評が広まり、瓦屋根が重いか構造が弱いかとか随分議論されていますが。

日本の伝統的な木造建築がもし本当に耐震的に劣っているとしたら、江戸時代に建てられた民家や町家などの古い木造家屋が、幾多の激震に耐えて全国に残っているはずはないと思います。

ご承知のように神戸は大戦末期の大空襲で焼土となった後、戦後に復興されました。つまり兵庫県南部地震で甚大な被害を発生したのは戦後の建築基準で作られたいわゆる現代木造ばかりで、戦前からの伝統的な家屋はほとんど存在しなかったのです。私たちが普段目にする筋交いや釘金物を多用する木造家屋は、明治以降に洋風木造の考え方を取り入れたもので、本来の伝統的和風住宅とは仕組みが全く異なっています。瓦屋根で畳の部屋があれば伝統和風家屋だと思われがちですが、現代の木造家屋の大部分は実は伝統木造とは似て非なるもの。今では伝統的な木造家屋は全国的にみて数%しか存在しないといわれています。その意味で、地震のたびに伝統木造家屋が大被害を受けたとする報道には問題がありそうです。

なぜ戦後の新しい木造建築に甚大な地震被害が発生したのか。その理由を探りながら、民家や町家など古い建物の調査や実験を続けていますが、震災に絡んで木造以外に大阪教会や川口教会などの古い煉瓦造り建築の復旧にも携わりました。また、現在、私どもは南森町のそばに昭和初期に作られた天満教会の現地調査を行っています。これは隠れた名建築です。



――建築物の強度を実証する方法は？

歴史的な建物の保存修理などの研究を始める前は、耐震工学や鉄骨構造学のほか、X線回折法や磁気的応力測定、ロボットや自動制御など、建築とは縁のなさそうな実験に没頭していました。大地震を受けた鉄骨建物の損傷を微視的、物理工学的に調べたかったからです。そんな中で小型の高速X線応力測定装置とか地震を受けた建物の揺れを立体的に再現するシミュレータ装置の試作開発などを行いました。今では本当に楽しい思い出です。

本当のことを言うと、もともと歴史的建造物などには何の興味もなかったのですが、恩師の指導を受けながら京都や奈良の国宝や重要文化財の社寺建築の現地調査に携わるうちに、日本建築のすばらしさや奥深さを実感。気がつけば若かったころに取り組んだいろんな実験手法を展開させながら、伝統建築の構造の謎解きに挑戦し始めていました。研究テーマは興味の赴くまま、寄り道ばかりですが、ちょっと珍しいところでは、京都・大山崎にある千利休が作った国宝の茶室―妙喜庵の待庵を伝統技能者と一緒に再現。神戸の直下型地震の波形で激しく揺らせたことがあります。びっくりしたのは建物が強い衝撃で一瞬飛び上がって茶室が地面を動き回ったのですが、か細く見えた建物には何の被害も見あたりませんでした。そのとき茶室はひょっとしたら伝統的な耐震

日野町曳山▶



日本基督教団大阪教会



日本聖公会川口基督教会



振動台で三重塔の揺れを立体的に再現

シェルターかもしれないと直感しました。もっともこの説は誰も支持してくれませんが…。

1年前の2007年3月の能登半島地震の震源に近い門前や黒島は、兵庫県南部地震よりはるかに強い加速度があったにもかかわらず、伝統的な木造家屋には目立った被害がない。おびただしい住宅が倒壊したあの神戸の惨状とは全く違う。テレビでは大被害を受けた建物のショッキングな映像が繰り返し放映されましたが、全体的に見ると被害は軽微。文化財などの古い家屋の復旧に普段から関わっている者の眼から見ると、短期間に直せるものがほとんど。ただ問題なのは地震後の応急危険度判定で赤紙を張られると、簡単に直る建物でも解体に突き進んでしまうことです。地震の直接被害よりも地震後の過剰解体がいたずらに経済損失を拡大させる現実が今回も繰り返されたことは残念でなりません。

いずれにせよ、地震で大被害を受けるのは、長年維持修理されずに部材が腐ったりして本来の実力を発揮できなかった建物や地盤が非常に悪いところの建物に集中します。この点を踏まえた事前の対策を怠らなければ地震被害は大幅に軽減します。

保存修復の技能教育と文化財ビジネスを！

――薬師寺東塔の研究をはじめ、平城宮朱雀門、薬師寺大講堂など大きな社寺の建築工事にもかかわってこられた西澤先生が、民家の保存修復にも力を入れておられるわけは？

文化財や文化遺産というものは、国宝や重要文化財など、既に価値が認められたものだけを指すではありません。たとえ一般には評価されていなくとも、戦前からの庶民の「住まい」や「町並み」など、要するに、ごく身近なちょっと古びた建物やそれらが造る景観も、大切な国民の共通財産といえます。何も伝統木造に

限りません。鉄筋コンクリート、鉄骨、煉瓦造などのレトロな建物も、保全して活用していけば面白い。

建物は人間の英知の結集。時代を超えて伝わってくるものがある。棟梁や左官など伝統の技能者の世界がしっかりと伝承され、それを土台にして日本人の美意識が育まれ、そして次の時代の天才が生まれるのだと思います。歴史資産は知識の母なるものだと思います。

――建築保存工学研究室のこれからの課題は？

テーマとフィールドは星の数ほどあります。今、研究室では滋賀県日野町の曳山をみんなで調べています。二百数十年間使われてきた実に立派なものです。それらの安全性や構造特性を調べるために、町の人たちと一緒に春のお祭りの巡行を先日雪の中で再現。巡行やギンギリまわしのとき、曳山はどのように揺れ、そしてどんな力や衝撃が発生するのか計測しました。これから数年がかりで16基の曳山を調べる予定。この研究は、まさに生きた耐震工学ですよ。

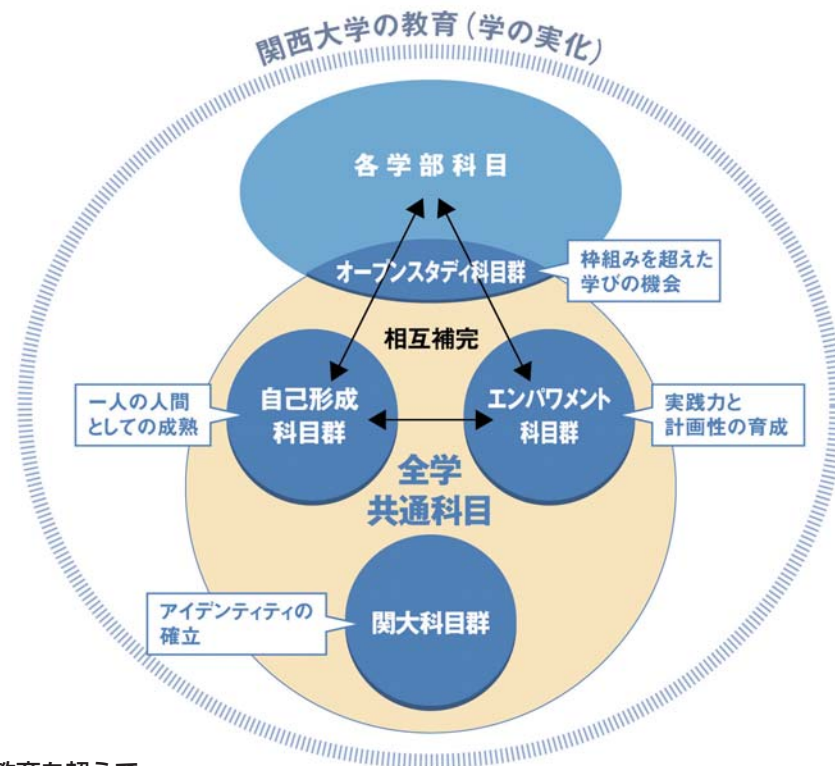
これから最も力を入れていきたいのは、歴史建造物の保存活用とリノベーションです。ヨーロッパでは保存活用の教育が熱心に行われ、ビジネス対象として大きな市場規模を誇っていますが、日本ではまだまだ。

私は歴史建造物を文化財として祭り上げるのを好みません。建物は使ってはじめて値打ちがでます。その意味で使い続ける技術としての保存修復やリノベーションに力をいれて、将来は“文化財ビジネス”として大きく広げていきたい。そうすれば伝統の棟梁や左官にも安定的に仕事が出る。自分達の郷土や国土への誇りをもって仕事ができる。古いものと斬新なものが互いに調和しつつ世の発展を促す――そんな国にしたいと思います。

2008年度から新カリキュラム 関西大学「全学共通科目」

総合大学のメリットを最大限に活用 社会で活躍するための資質を伸ばす

関西大学は、2008年度入学生から、従来の「教養科目」「インターファカルティ教育科目」「保健体育科目」を統合して、「全学共通科目」とする新しいカリキュラムをスタートさせる。学部の枠を超えて、社会で活躍するために必要な広い視野と能力を、そして本学の学生にふさわしい資質を引き出す新カリキュラムとは――。



■「全学共通科目」の狙い――従来の教養教育を超えて

日本の大学では長らく、1・2年次の「教養教育」を人文・社会・自然科学の分野別に縦割りにして3・4年次の「専門教育」に備えるという考え方が広くとられてきた。しかし、1991年に大学設置基準の大綱化がなされてから、多くの大学で新しい学問と社会のかたちに対応する改革の流れが見られる。

本学では2004年に教養改革に関する学長諮問が出されたのをきっかけに、約3年間にわたる全学的な議論を経て、2008年度入学生から教養教育を大幅に改編し「全学共通科目」をスタートさせることになった。

その基本理念は、教養教育が専門教育に入るための準備段階として「従属的」「階層的」にとらえられてきたことへの見直しにある。そして、関西大学の学生にふさわしい資質を学部の違いを超えて引き出すこと、そのうえで学部ごとに特化した専門教育と有機的に連関させながら総合的な知を備えた自立した個人を育てることが、全学共通科目の目的となっている。

■A群(自己形成科目群)の教育の目的と科目の性格 (マトリクス表とサブグループ)

教育の目的 科目の性格	人間性 (人格の陶冶)	社会性 (成熟した社会人)	国際性 (地域・国際社会の一員)
知の発見 (洞察力・自己決定力)	1. ところ・からだ・いのち 2. 思考・行為 3. 自己表現・他者理解 4. 人権 5. 時事問題	1. 倫理・道徳 2. 生活の中の知 3. 地域・集団・民族 4. 日本の社会 5. 時事問題	1. 国際理解 2. 自然・環境 3. 世界の中の日本 4. 平和と戦争 5. 時事問題
知の継承 (探究心・知的好奇心)	1. 知の見取り図 2. 知の探求		
知の跳躍 (創造力・総合力)	学問領域を意図的に超えた各テーマ		

○目的と性格を掛け合わせたマトリクス表の枠の中に「1. ところ・からだ・いのち」などのサブグループをつくり、そのもとに関連科目が設定されます。これによって、一つの科目の目的・性格・内容などがよりわかりやすくなります。

■ 関大生の学ぶ力と意欲を引き出し 現代社会の要請に応える科目群

●全学共通教育推進機構長 高瀬 武典

全学共通科目の教育システムは、二つの特長を備えています。まず、従来の「教養科目」を学生の多様な知的関心に応えるかたちに生まれ変わらせたことです。学生一人ひとりの個性を伸ばし、多様な問題関心を育てる、新しいアプローチからの科目群です。具体的なイメージがあるから、学ぶ意欲がアップします。

もう一つの特長は、総合大学としての関西大学の専門教育とのコラボレーションを最大限に生かすことに配慮していることです。10学部を擁する本学の誇る「知の多様性」をいっそう活用し、学部の枠を超えてさまざまな学生が共に学ぶことで、知性を活発に交流させることを期待しています。

■ 四つの科目群の内容

――長期的なキャリアデザインを支援

A群 自己形成科目群

高校生から社会人への成長を促す科目群。①知の発見、②知の継承、③知の跳躍という三つの科目区分を設置。各科目ごとに「人間性」「社会性」「国際性」のいずれかに教育の目的を設定している。

B群 エンパワメント科目群

なりたい自分に向けて、能力を磨き実践する科目群。「スタディスキル科目」「健康・スポーツ・人間支援科目」「キャリア教育科目」の三つのカテゴリーを用意している。

C群 オープンスタディ科目群

学部や大学の枠を超えて、幅広い学びの機会を提供する科目群。「大学コンソーシアム大阪プログラム」「生涯スポーツ・身体運動文化コース」などがこれにあたる。

K群 関大科目群

関西大学の学生としてのアイデンティティを形成する科目群。「知の群像：日本の近現代史と関西大学」「吹田市と関西大学」「高槻市と関西大学」「関西文化圏と関西大学」が開講される。

「笑い測定機」を開発

笑いを数値化し、アッハ単位で表示

ソシオン研究プロジェクトユニットの木村洋二・社会学部教授らの研究チームが開発した「笑い測定機」のデモンストラレーションが、2月20日に行われた。笑いは免疫力を高め、健康増進に役立つと言われているが、「おかしみ」の笑いを定量化するこの装置は、笑いと健康の関連を科学的に検証する革新的ツールとなる可能性を秘めている。

5歳の女儿と30代の男女3人の被験者を笑わせて、数値を測る実験を実施。「笑い測定機」は見事に笑いをとらえ、その度合いを数値化し、アッハ(aH)という単位で表すことに成功した。

被験者の横隔膜の周辺の皮膚にセンサーを張り付け、筋肉に発生する微弱な信号(筋電位)を1秒間に3000回の頻度で測定。木村教授のジョークや、吉本興業の若手の漫才コンビ「りあるキッズ」のお笑いによって引き起こされた笑いに反応して、パソコン画面に「笑い波」が現れ、その波形の違いが分析され、度合いが数値で表示された。

大爆笑は1秒あたり5アッハほどで、4秒続くと20アッハになる。この日の最高値は女儿的42アッハ。4.2秒の笑いで、1秒あたり10アッハだった。大人のくすくす笑いは15秒で3アッハ。1秒0.2アッハにあたる。

関西大学では、笑いを21世紀人間科学のフロンティアとしてとらえ、学際的に「笑いの総合科学」を追究している。「笑い測定機」についても、携帯電話ほどのサイズに小型化することを目指し、開発を進めていく。



PROGRAM

全国初！複数大学による共同学部設置

関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学

3大学共同で 生命科学系新学部を開設

関西大学では、大阪医科大学(大阪府高槻市)、大阪薬科大学(同)と共同で、21世紀「生命の時代」を担う人材の育成を目的として、生命科学系の新学部を大阪医科大学の敷地内に設置することになった。これは文部科学省が新たに打ち出した複数大学による共同学部設置制度に基づき、3大学の共同学部として設置するもので、2010年4月の開設を目指している。



左から学校法人大阪医科大学・國澤隆雄理事長、学校法人関西大学・森本靖一郎理事長、学校法人大阪薬科大学・矢内原千鶴子理事長

●医学・工学・薬学・看護学などの学際拠点に

これまで大学間の単位互換や連合大学院はあるが、複数大学による共同学部の設置に向けた取り組みは初めてだ。文部科学省は2008年度中に大学の設置基準に関する省令を改正し、設置を可能にする予定で、早ければ2010年4月から新学部がスタートする。

学部名称は未定だが、生命科学部、生命医科学部あるいは生命健康学部といった生命科学系の学部とし、学生定員は1学年約200人規模で検討している。学科あるいはコース構成についても未定だが、生命医科学科、生命薬科学科、医工学科、生命情報科学科、医療経営学科、看護学科またはコースを想定している。

医学・工学・薬学を学際的に学んだ人材、かつ専門知識に加えて教養、心理、倫理なども学んだ看護師の育成を目的としている。

●共同大学院・連合大学院等の設置も視野に

教育研究体制としては、共同学部の利点を生かし、学生・教員双方において流動性の高いものとし、看護学科での国家資格にかかわる専門科目以外では、共通の教養・専門教育のほか、3大学における関連の専門教育と卒業研究指導を受けることになる。

また、学部完成後のできるだけ早い時期に、共同大学院または連合大学院等の設置も構想されている。より高度な専門教育・研究のため、固有の装置・設備のほか、3大学の既存の教育・研究施設も活用し、融合した教育研究体制をとる予定だ。

今後、3大学の関係者による設置協議会において、具体的な内容を協議・検討したうえで、文部科学省に設置申請を行うことになる。

地域連携さらに多様化— 広がる教育研究のフィールド

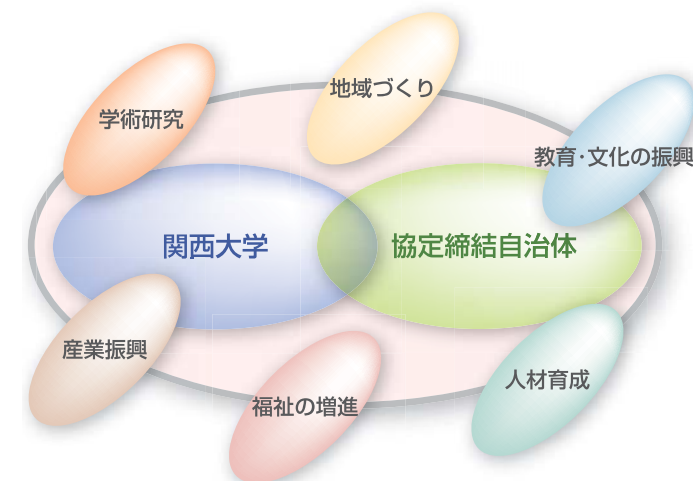
佐賀県武雄市と「連携協力に関する協定」を締結



協定書を交わす樋渡啓祐市長(左)と河田学長

関西大学は佐賀県武雄市と包括的な連携を行うことで合意に達し、2007年11月26日に調印式を行い、「連携協力に関する協定」を結んだ。

この協定は、地域づくり、教育・文化の振興、人材育成、福祉の増進、産業振興、学術研究等の分野で相互に協力し、活力ある



■ 関西大学と協定締結自治体との連携協力イメージ

地域づくりと大学の活性化に寄与することを目的としている。

本学では、建学当初より、大学の持つ知的資源を社会に還元するため、地域との連携を重視してきた。これまでに高槻市(大阪府)と吹田市(大阪府)、八尾市(大阪府)、明日香村(奈良県)、丹波市(兵庫県)と連携協定を結んでいる。

昨今の地域連携では、学生のかかわりが重要になってきている。地域をフィールドワークとして活用し、学生と教員による教育研究活動を通じて活性化する形態の連携が増えている。次世代社会を担う学生が地域の人々との交流を通じて、地域社会に内在する課題を発見することが期待される。

天神橋筋商店連合会と連携協定

文化拠点とも連携して 地域全体を活性化

関西大学と天神橋筋商店連合会(大阪市北区)は、包括的な連携を行うことで合意に達し、2007年11月29日に大阪天満宮の天満宮会館で協定を締結した。

商店街を単なる利潤追求の場ではなく、公共のものとしてとらえ、学生や地域住民が協力して、街の活性化プラン「街活かし」を継続することで、双方の発展と充実に寄与することを目的としている。

関西大学と天神橋筋商店街の関係は古く、その端緒は今から約80年前にさかのぼる。1929(昭和4)年9月、関西大学は商店街にほど近い場所(現在の大阪市北区長柄西)に天六学舎を開設。1994年(平成6)年に第2部(夜間部)が天六から千里山キャンパスに移転するまで、数多くの勤労学生たちがその地で学んだ。

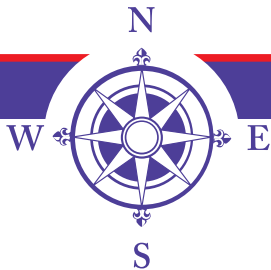
また一昨年4月に、社会学部社会システムデザイン専攻の学生たちが、天神橋筋商店連合会の協力を得て、「商店街の活性化」をテーマにフィールドワークを行い、報告書にまとめた。それを



調印式で握手を交わす土居年樹・天神橋筋商店連合会会長(左)と河田学長

きっかけに、学生たちが「町街人」の愛称で、観光や買い物に訪れる人々に、名所や目当ての店をはじめ、街の歴史まで幅広く案内する「街のコンシェルジュ」として活躍している。

さらに今回の連携では、商店街とゆかりの深い大阪天満宮や天満天神繁昌亭など地域の文化拠点とも連携し、地域全体の活性化を目指す。



大阪府堺市に新キャンパス開設 2010年4月、「健康文化学部」を展開

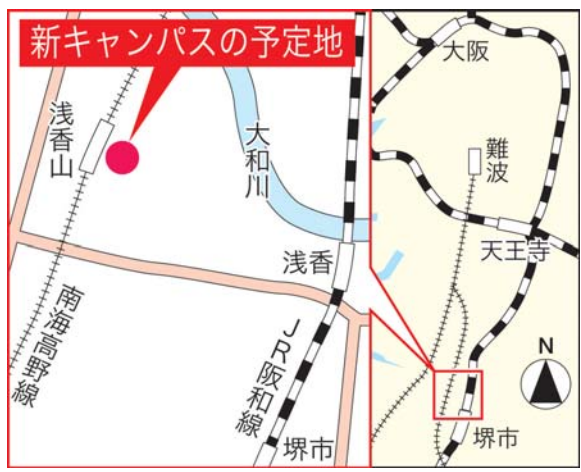


選定結果を受け握手を交わす、(左から)森本理事長、木原敬介市長、河田学長

関西大学は、堺市立商業高等学校・第二商業高等学校の校地に、2010年4月から「健康文化学部」を展開する。

昨年8月に堺市から発表された同校地における大学等高等教育機関設置企画提案に関する公募に対して、本学校法人が12月に企画提案書を提出し、2月に堺市から優先交渉権者に選定された。今後、基本協定を締結し、具体的な開設準備を進めていく。

同学部には「健康福祉」「スポーツ・身体文化」「健康とユーモア科学」の3領域を設置する予定。在学生に対して健康福祉、スポーツ・身体文化、ユーモア科学などに関する専門的教育を行う一方で、市民が健康で文化的な生活を送ることができるよう、女性、シニア層に対するリカレント教育など各種の支援・連携事業を展開することにより、積極的な地域貢献を行う。



来春、外国語学部(仮称)を新設

関西大学は2009年4月に、本学で11番目の学部となる外国語学部(仮称)を新設する。英語教育専修、中国言語文化専修、外国語コミュニケーション専修の3専修で、入学定員は150人。

グローバル化がこれまで以上に叫ばれる今日、「国際的精神の涵養」と「外国語の必要性」に対する社会の要請に応えるため、(1)教育改革の最大の要点である優れた外国語科目担当教員の養成と、(2)実践知性としての高度なコミュニケーション能力を備え、国際舞台で幅広く活躍するリーダーを養成することを目的としている。文部科学省への届け出は本年6月に行う予定。

高松塚古墳の壁画、豊臣期大坂図屏風 美術陶板で再現し展示

関西大学は、高松塚古墳の壁画と豊臣期大坂図屏風という貴重な歴史遺産を美術陶板で再現し、千里山キャンパス内に常設展示する。

高松塚古墳の極彩色の壁画は、陶器と磁器の間となる素材「せつ器」を素材とする陶板を使い、原寸と同じ大きさの東壁、南壁、西壁、北壁、天井を製作し、発見直後(2~3日以内)に撮影された写真を元に描かれていた壁画の色彩と、はがれ落ちた漆喰などの立体感までも再現した。

展示施設の「高松塚古墳壁画再現展示室」は、本学の網干善教文芸部助教授(当時)が1972(昭和47)年3月、考古学研究室の学生らとともに高松塚古墳の壁画を発見してから35年経過したことを記念して設置され、3月11日に完成した。今後、学生だけでなく一般の方々にも無料で公開する。

同じく美術陶板で再現された豊臣期大坂図屏風は、完成した第1学舎1号館2階ロビーに展示。この屏風は、オーストリア南部のグラーツ市にあるエッゲンベルク城内に残されているもので、絵師や制作年代、オーストリアに渡った時期や経緯については不明のため、関西大学とグラーツ市内の州立美術館が共同研究を進めている。

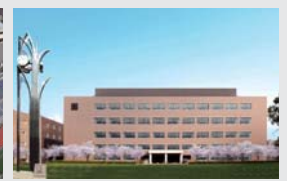
新館が相次いで竣工 第4学舎3号館、第1学舎1号館

第4学舎3号館は3月6日に竣工。地上5階建て、延床面積5,612.68㎡を有し、最新の授業支援設備を備え付けた教室や実習施設のほか、建物東側には体育活動施設として、1階から4階までを吹き抜けにし、全面に人工芝を敷設した屋内練習場を設置。さらに屋上には、4面のオムニコートと155人収容の観客席を備えた“空中テニスコート”がある。

第1学舎1号館は3月17日に竣工。地上6階建て、延床面積11,329.36㎡を有し、教室や実験・実習施設のほか、2階ロビーには豊臣時代の大坂城や大坂の町並みが描かれた「豊臣期大坂図屏風」を美術陶板で再現のうえ展示している。



第4学舎3号館



第1学舎1号館